

研究主題「学んだことを活用して、運動の課題を解決するための方法や活動を

仲間と共に工夫できる児童の育成」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
多摩市立瓜生小学校 主幹教諭 吉川 俊

第1 研究のねらい

中央教育審議会答申（平成28年12月21日 文部科学省）では「運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』を育成することを目標として示す。」としている。

また、小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月）では「これらの資質・能力を育成するためには、（中略）運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決するなどの学習が重要である。」としている。

これらのことから、運動の課題の解決に向けた主体的・協働的な学習活動を通して、児童の「課題を解決するための方法や活動を工夫する力」を育むことが必要であると考えた。この力を育むために、本研究ではボール運動の学習を通して、集団対集団で勝敗を競い合う中で、仲間と協力してゲームのルールや作戦を工夫することができるようにした。

ゲームのルールや作戦を工夫していくためには、学級やチームで話し合い、それぞれの考えを認め合いながら合意形成を図っていく力が必要である。この力をより高めていくためには、体育科だけでなく他教科等と関連を図り、教科等横断的な視点で授業を展開していくことが効果的だと考えた。特に、学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践することを内容とした特別活動の学級活動(1)と関連させることが有効であると考えた。

そこで、体育科と特別活動の学級活動(1)を関連させた授業を通して、「学んだことを活用して、運動の課題を解決するための方法や活動を仲間と共に工夫できる児童」を育成することを目指し、本研究主題を設定した。

第2 研究仮説

体育科の学習において、体育科と特別活動の学級活動(1)を関連させた単元配列の工夫や教材の開発を行い、指導することで、学んだことを活用して、運動の課題を解決するための方法や活動を仲間と共に工夫できる児童を育成することができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

体育科ボール運動と特別活動の学級活動(1)の関連性を明らかにした。

体育科ボール運動の学習では、自己やチームの課題を見付け、ゲームに勝つための作戦について話し合い、合意形成し、役割を分担してゲームに取り組んでいく。そして、チームの振り返りを行い、次のゲームにつなげていく。

特別活動の学級活動(1)では、学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して実践していく。そして、活動を振り返り、実践の継続や新たな課題の発見につなげていく。

それぞれ、課題解決を図る学習過程が共通しており、関連を図ることができる。

2 調査研究

都内公立小学校5校、体育科の指導経験のある教員66名及び第6学年児童302名に、体育科の学習での課題解決に関する意識調査を行った（図1）。

教員の意識調査における「体育の学習と他教科等の学習を関連させた授業を行っている」という設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた教員は30%であったことから、他教科等との関連を図って授業を行っている教員は少ないことが分かった。

また、児童の意識調査における「体育の授業で学習した内容は、他の教科の学習にも活用できると思う」という設問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた児童は48%であったことから、体育科で学んだ内容が他教科等の学習に活用できるという児童の意識が十分に働いていないことが分かった。この調査研究の結果を踏まえて開発研究を行った。

3 開発研究

(1) 体育科と特別活動の学級活動(1)を関連させた単元配列の工夫

体育科ボール運動の学習では、ルールや作戦を工夫し、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができるようにすることが必要である。そのためには、チームワークや学級全体の関わり合いを高めることが大切である。

そこで、体育科ボール運動の単元の前に、学級活動(1)の集会活動を意図的に位置付け、学級活動(1)の集会活動における振り返りの内容（友達のよさを見付け、互いに認め合うこと・役割を分担して協力して活動に取り組むこと・みんなが楽しめるように活動を工夫することなど）を体育科の学習の振り返りの内容と関連付けて指導を行うことで、よりよいチームづくりを目指す中で、児童の資質・能力をより高めることができると考えた。また、体育科ボール運動の学習で学んだことを次の学級活動(1)の集会活動に生かすことで、よりよい集団づくりにつながると考えた。

(2) 体育科と特別活動の学級活動(1)を関連させた教材の開発

ア 仲間のよさをチームで共有するための「チームのよさ☆発見シート」の開発

ボール運動は、チームの特徴に応じた作戦を立て、ゲームに取り組む学習である。チームの特徴をつかむためには、チームの中で一人一人のよさが共有されることが大切である。

そこで、一人一人のよさをチームで共有できるように、見付けた仲間のよさを記入できる「チームのよさ☆発見シート」を開発した。

イ 話し合いにおける合意形成の手順

ゲームのルールや作戦を工夫していくためには、学級やチームで話し合い、それぞれの考えを認め合いながら合意形成を図っていくことが必要になる。

しかし、十分な運動量を確保するため、体育科においては、話し合いに使える時間は限られ

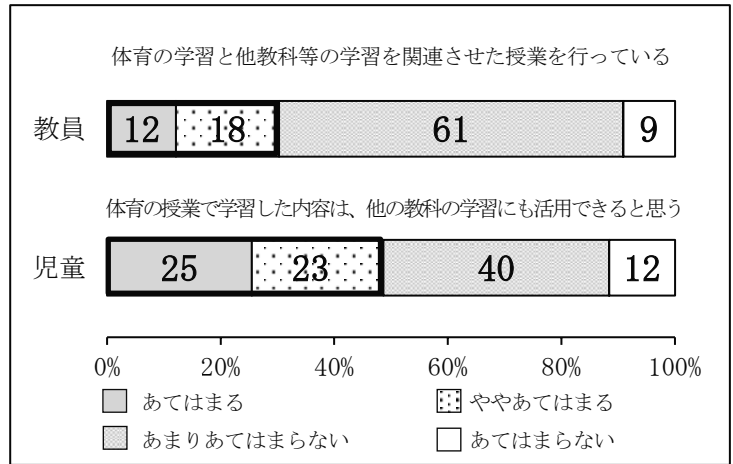


図1 教員及び第6学年児童の体育科の学習での課題解決に関する意識調査（令和元年7月実施）

ており、短時間で合意形成を図らなければならない。そこで、特別活動の学級活動(1)の話し合い活動で取り入れている合意形成の手順を活用することで、短時間の中でもルールや作戦について合意形成していくことができると考えた。

ウ 視点をしばった振り返りを行うことができるチームカードの開発

特別活動の学級活動(1)における集会活動では、「自分・友達・クラスのよかったところ、今後も続けていきたいこと」、「クラスとしてもっとよくしていきたいこと」、「クラスとして次に挑戦したいこと（具体的な目標）」の視点で振り返りを行う。

この特別活動の学級活動(1)で取り入れている振り返りの仕方を、体育科ボール運動の学習におけるチームの振り返りでも活用し、「自分・友達・チームのよかったところ」、「もっとよくしていきたいこと」、「次に挑戦したいこと」の視点からチームの振り返りを行えるようにチームカードを開発した(図2)。

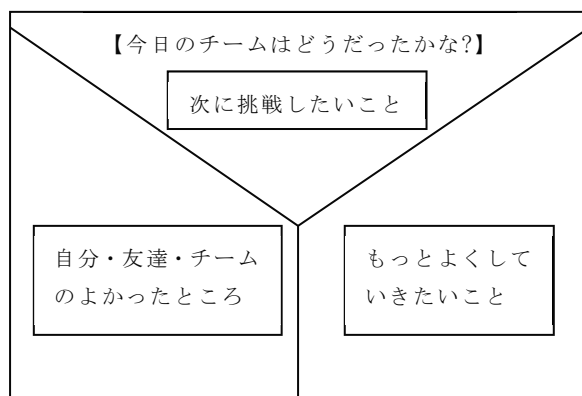


図2 視点をしばった振り返り

そして、この毎時間のチームの振り返りを画用紙に貼り付けて、チームの成長の変遷が分かるようにした。

4 検証授業

(1) 検証授業の概要(令和元年11月実施)

都内公立小学校、第6学年児童(22人)を対象に、体育科ボール運動ゴール型「バスケットボール」(全8時間)の検証授業を実施した。

(2) 意識調査の結果による児童の変容

単元前後に実施した意識調査の結果を比較した。単元前と比較すると、「体育の授業では、自分やグループに合った練習や場を選んでいる」という設問に対して、「あてはまる」と答えた児童は35ポイント増加した(図3)。チームの作戦に応じた練習方法を自分たちで考え、工夫して取り組んだことの結果が出ている。

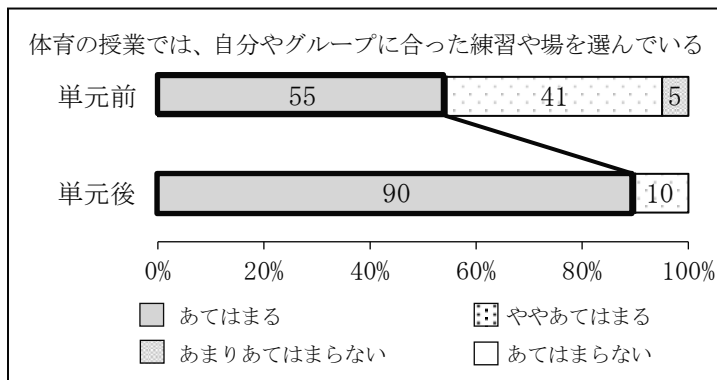


図3 練習や場の工夫に対する意識の変容

また、「体育の授業で学習した内容は、他の教科の学習にも活用できると思う」という設問に対して、「あてはまる」と答えた児童は35ポイント増加した(図4)。「あてはまる」と答えた理由として、「体育の授業で、作戦を立てるときには、『ゲームに勝つためには、どうすればよいか』を考える。学級活動でも『学級をよ

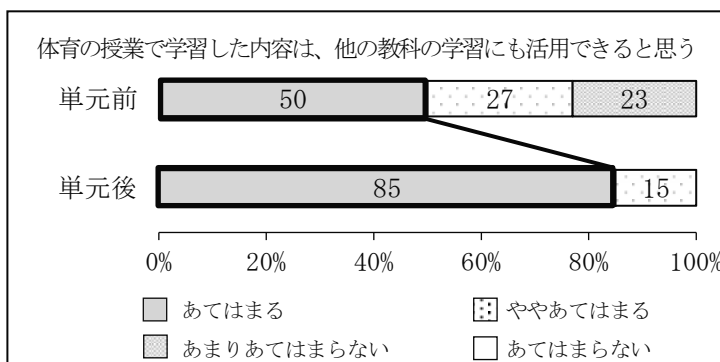


図4 他教科への活用に対する意識の変容

りよくするためには、どうすればよいか』を考えていくので似ている。」という意見があった。体育科と学級活動の関連性を児童が見だし、身に付けた資質・能力を活用・発揮しようとする意欲につながっている。活用できる教科等は、学校行事、学級活動、道徳科、国語科等が挙げられた。活用できる内容は、「仲間と協力して活動に取り組むこと」「周りを見て、相手のことを考えること」「一人一人の個性に合った役割分担をすること」など、人間関係形成に関わる回答が多く挙げられた。学級活動(1)の集会活動における集団づくりを体育科ボール運動の学習におけるチームづくりに関連付けて指導を行った成果が出ている。

(3) 体育ノートにおける児童の振り返りの分析

体育ノートにおける単元全体の振り返りでは、「学んだことを活用すること」「課題を解決するための方法や活動を仲間と共に工夫すること」に関する記述が多く見られた(表1)。

表1 体育ノートにおける単元全体の振り返りの記述内容

視点	児童の振り返りの内容
学んだことを活用すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間のことを考えて、仲間がパスしやすい場所に動きました。この「相手のことを考える」ことを、みんなで協力して活動する行事などに生かしていきたいです。 ○ バスケットボールの授業を通して、声掛けの大切さが分かりました。声を掛け合うとチームの雰囲気がとてもよくなったからです。この声掛けを行事や学校生活で生かしていきたいです。 ○ チーム一人一人のよさを見つけて、そのよさを生かせるように役割分担をして、協力してゲームに取り組むことができました。このことを生かして、行事などでは、一人一人がその人の個性に合った役割をすることによって最高のものをつくっていきたいです。
課題を解決するための方法や活動を仲間と共に工夫すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人のよさを生かして、仲間と連けいできる作戦を立てることでゲームに勝つことができました。このことから、一人ではなく、みんなで活動に取り組むことが大切だと分かりました。 ○ チームの一人一人が成長できました。ゲームの回数を重ねるたびにみんなが上手に動けるようになりました。これは、話し合っ作戦を細かく決めたり、練習の仕方を工夫したりすることをチームのみんなで協力してできたからだと思います。 ○ チームのめあての「一人一人の個性があふれ出て、みんながゴールを決められるチーム」を意識して、ゲームを振り返ったり、チームの課題に合わせて練習を工夫したりしたことによって、どんどん改善点をチームのよさに変えていけたことが、チームの一番の成長だと思います。

第4 研究の成果

- ・ チームの振り返りでは、学級活動(1)の話し合い活動で学んだ合意形成の手順を活用して、作戦について話し合い、互いの考えを認め合いながら合意形成を図る姿が見られた。
- ・ 「自分・友達・チームのよかったところ」、「もっとよくしていきたいこと」、「次に挑戦したいこと」の視点からチームの振り返りを行ったことで、今のチームにとって何が重要なかが明確になり、課題に応じた練習方法をチームで話し合い、工夫する姿が見られた。
- ・ 互いによさを認め合い、チームで協働的に課題解決を繰り返す学習を通して、勝敗の結果だけではなく、「チームとして、どう成長することができたか」に価値を感じることができた。

第5 今後の課題

児童が、体育科で学んだことを他教科等で活用・発揮できるようにするための手だてを開発していくこと。